

最近の女性のヘアスタイル

：変わる前髪、高校生も2割が染毛

「おしゃれ白書 '91」と「おしゃれ白書 '94」を比較して

ここ数年若い人の髪型が変わってきています。

高校生など髪が短くなってきりりとしたヘアスタイルが目につくようになってきています。80年代に目立ったの前髪を深く下ろしたオカッパ頭で後ろに長い髪をなびかせたヘアスタイルは少なくなった印象を持ちました。ですが、このような現象はどのくらいの割合で起きているのでしょうか。

91年のデータと94年のデータを比較してみました。

結果は、前髪のスタイルは大きく変わっていました。しかし、髪の長い人の割合はあまり変わっていないようです。だから髪の短かった人が、よりショートヘアになっていると考えられます。

一方、若い人は染毛している人が増えています。その分パーマをかけている人が減っていました。

高年代の人ではパーマや染毛の実態に大きな変化はありませんでした。しかし意識は大きく変わっています。「老いを感じさせる白髪は染めた方がいい」という他者の目を意識した考え方が全年代で大きく減っていました。

このレポートはポーラ文化研究所が3年ごとに実施している15歳から65歳までの女性のおしゃれに関する意識と行動調査の結果を元にまとめました。

今回は91年と94年の結果を比較考察しました。

それぞれ「おしゃれ白書'91」

「おしゃれ白書'94」としてまとめてあります。

1995年 8月
ポーラ文化研究所
担当：岡林、高谷

1、調査概要

「おしゃれ白書 '91」「おしゃれ白書 '94」としてポーラ文化研究所がすでにまとめて販売している調査です。 2 調査とも

- (1) 調査対象 / 東京駅30Km圏内に居住する人
- (2) 対象者抽出法 / エリアサンプリング法
- (3) 実施方法 / 個別訪問面接聴取法および留置法の併用
- (4) 年齢分布 / 以下のとおり

91年 (人)		94年 (人)	
15-19歳	100	16-18歳	75
20-24歳	150	19-23歳	150
25-29歳	150	24-29歳	150
30-34歳	150	30-34歳	150
35-39歳	149	35-39歳	150
40-44歳	150	40-44歳	75
45-49歳	149	45-49歳	75
50-54歳	101	50-54歳	75
55-59歳	101	55-59歳	75
60-64歳	100	60-64歳	75
全体	1300人	全体	1050人

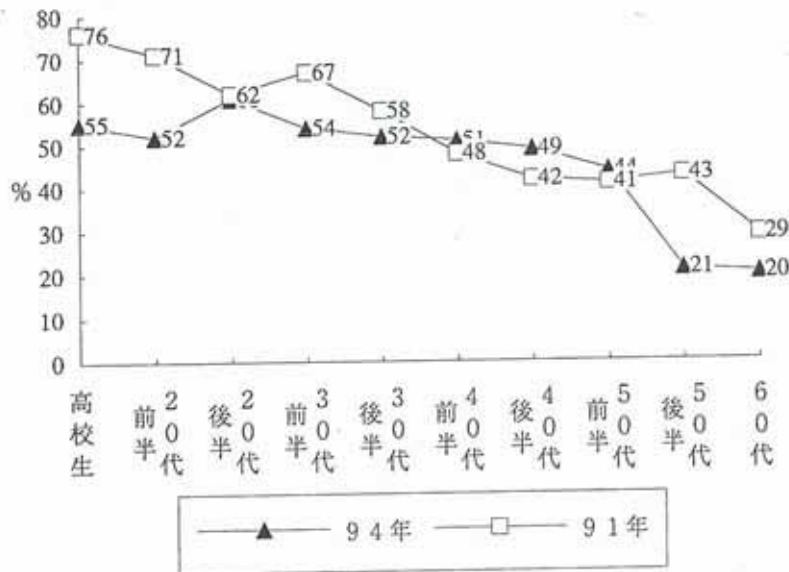
2、本レポートで使用した質問とその回答

以下の質問にたいして「そう思う」人は「YES」と答えてもらい、「そう思わない」人は「NO」と答える二者択一式で行った。結果は「YES」と答えた人の割合を%で示している。

- (1) 前髪を下ろしていますか (生え際がみえない)
- (2) 髪の毛の長さは短いですか (肩まで届かない)
- (3) 染毛していますか
- (4) パーマをかけていますか
- (5) 老いを感じさせる白髪は染めた方がいい
- (6) メイクアップはエチケットであり、していないと失礼

3、結果の説明

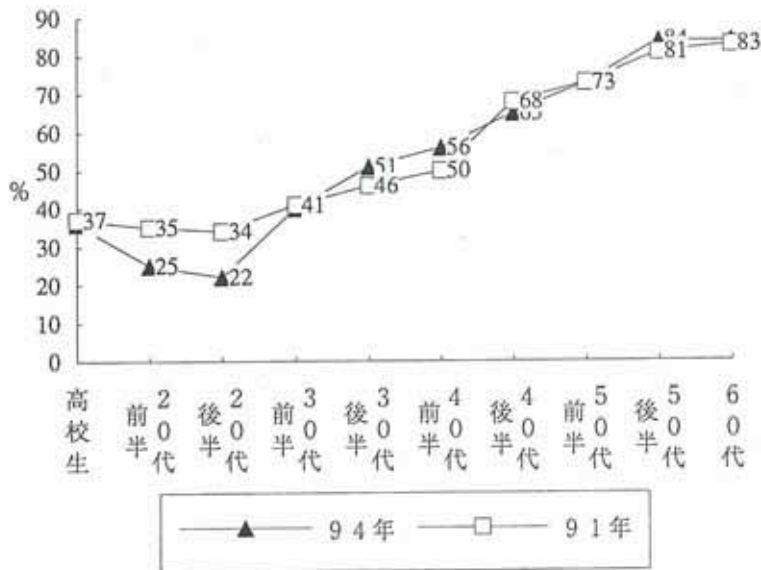
1) 前髪をおろしている（生え際が見えない）



「前髪を下ろしている」人は91年は高校生と20代前半では7割を越えていました。だが94年には5割まで少なくなっていました。確かに前髪あげて額をすっきりと出している人は増えていたのです。また、これは50代後半から60代の人でも1割以上の変化が見られています。かつては大人の女性の髪型は額をすっきりみせる形が一般的だったのです。80年代から日本中の女性が額を隠す髪型を好む傾向が広がっていました。しかし、若い人がこのように額をすっきり見せだすことでむしろ昔のヘアスタイルを知っている高年代の人から額を見せはじめたようです。

さらに街をみれば前髪全部を下ろす人は減って、代わりに半分は下げ、半分は上げている人（これを私たちは簾^{すだれ}髪と呼んでいます）も多く見かけます。従ってここに現われた数字以上に街でみかけるヘアスタイルは額が見えるようになったという印象になっているはずです。

2) 髪のはきは短い (肩まで届かない)



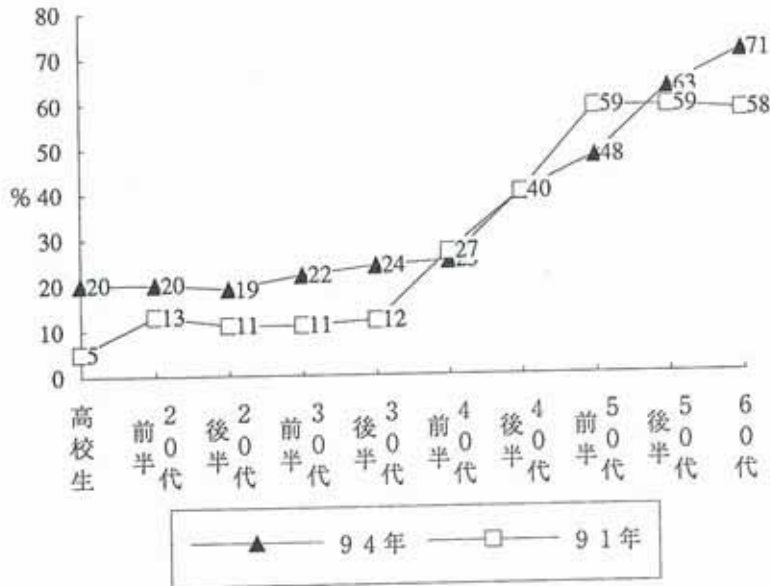
一方、髪のはきはを見ると「髪は肩まで届かない人」はそれほどの変化はなく、髪のはきは年代によって変わっていく傾向が続いています。20代では8割の人が肩まで届く長い髪をもっています。そして30代になって髪を切る人が増えはじめ、50代の後半では8割の人が髪を短くしています。理由は「めんどくさい」から「増えた白髪がめだたないように」までいろいろ考えられます。しかし今回の調査では聞いていません。

一方街で見かける印象は、女性の髪が短くなっています。しかしこの調査を見る限り、髪のはき短かった人がさらに思いきったショートヘアになっているのであって、長い髪のはきの割合は20代を除いて変わっていません。

3) 髪の手入れ；染毛とパーマ (グラフは次頁)

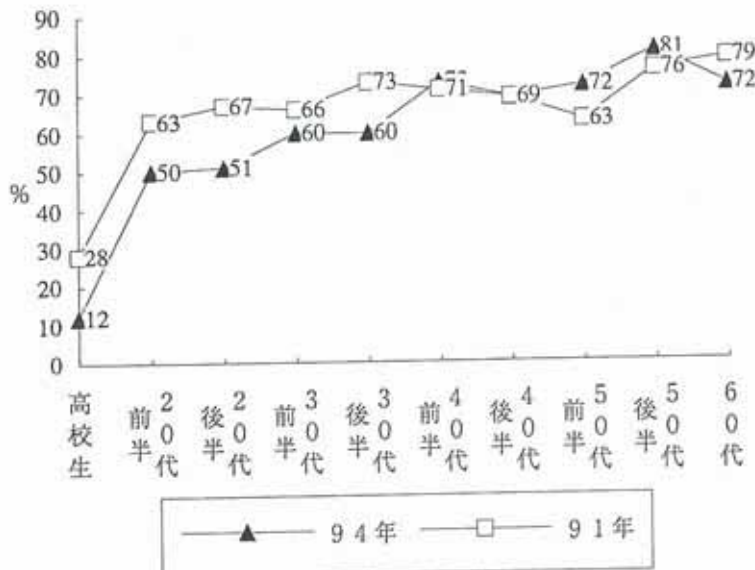
このような基本のヘアスタイルの変化とともに髪の手入れも異なってくるのが考えられます。まず、染毛ですが、これは40代前半までは年代の依存性がほとんどありません。染毛している人は2割強です。ですが40代後半から増え始めます。これは白髪対策と考えられます。60代では7割の人が染毛しています。91年と94年を比較すると高校生から30代まではそれぞれ、染毛している人が1割くらい増えています。これは最近よく目につく「おしゃれ染め」の広告が若い人に受入れられていることを示しています。あるいは「茶髪」とよばれる若い人のファッションがかなりの人に広まっていることを示しています。

染毛している



次にパーマの実施率を見ます。パーマは年代との関連は少なく、20代で5割以上の人がかけていて徐々に増加していき、50代後半でさらに増加し8割の人がパーマをかけるようになります。91年との比較では30代より若い人でパーマをかけている人が1割くらい減っています。これはちょうど、染毛している人の増加分に相当しています。パーマと染毛を同時に行なうのは経済的にも安全イメージ上も避けたいのではないかと思います。

パーマをかけている

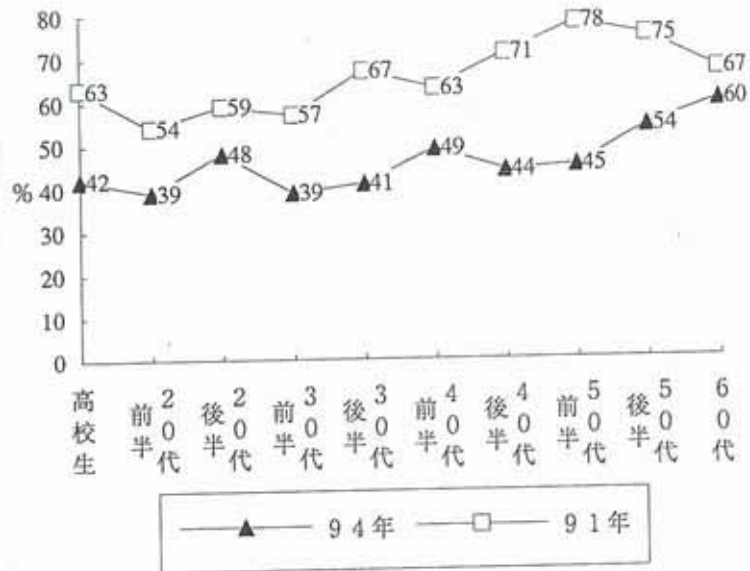


4) 染毛に関する意識

最後に染毛の意識を見ます。

「老いを感じさせる白髪は染めた方がいい」と考える人が91年から94年にかけて大きく減っています。60代は別にすると年代によって2割から3割も減っているのです。ただし先に見たように実際に染毛している人はほとんど変わっていないのですから、あくまで考え方が変わったということです。いろいろなおしゃれ染めも出回ったり、ウェーブを上手に活かして白髪をむしろ魅力に変えている人が増えているせいもあると思います。しかしそれだけでしょうか？

老いを感じさせる白髪は染めた方がいい



5) メイクアップに関する意識

これを「メイクアップはエチケットであり、していないと失礼」の結果と比べてみます。これは91年から変化は見られません。高校生で「はい」と答えた人は少ないのですが、20代で増加し、40代からは6割弱の人が「はい」と答えています。若い人もメイクアップよりは白髪染めの方が必要を認識しているといえます。30代以降は白髪染めとメイクアップに対する態度ほぼ同じ傾向にあります。すなわち現在の日本では5割弱の人が身だしなみの為にはメイクアップをしたり白髪染めをしたりした方が良いと考えているのです。しかし50代、60代では6割以上の方が髪を染めており、電車にのればほとんどの人がメイクアップをしています。しかし、今回得られたデータではこのように、他者の目を意識すべきだと意識して思っている人は確実に減少しています。実際の私たちのスタイルが次にどのように変化するか興味深い問題です。

メイクアップはエチケットであり、していないと失礼

